

平群町まちづくり会議 実施報告書（資料編）

第 1 回平群町まちづくり会議（オンライン方式）

P 1 ～ P 5

テーマ：『平群の魅力再発見』

第 2 回平群町まちづくり会議（オンライン方式）

P 6 ～ P 10

テーマ：『10 年後の私、10 年後の平群』

第 3 回平群町まちづくり会議（対面方式）

P 11 ～ P 16

テーマ：『10 年後の平群町のために必要な取組み』

<第1回まちづくり会議>
(A班)

好きなところ・お気に入りの場所 満足しているところ	気になるところ、課題、改善点	10年後、自分や家族、子や孫は どのように暮らしていきたいか	取組案として
住環境・自然 自然が豊かでのか 夕日が綺麗 星が綺麗 空気が綺麗 静かで過ごしやすい	情報発信、PR 県内外へのアピールが不足していてもったいない 朝護孫子寺は三郷町にあるイメージがついており、三郷町の方がPR上手い気がする 文化遺産×芸術のPRをもっとすればいいのに！ 自然の豊かさを活かせていない 生駒市からこんなに近かったなんて知らなかった… 大阪までのアクセスも悪くないとアピールが必要	将来像 商業地域と住宅地域が交わったまち 自然の豊かさを維持したまま 自然とのバランスがとれた住宅環境 公共サービスの充実 町内からも町外からも人が集まる活気のあるまち ※税収面を考慮すると相反するので難しいが… … 若い人も高齢者も住みやすいまち 世代を超えて住み続けたいと思えるまち 10年後も家族みんなで平群で暮らしたいと思えるようなまち	(そもそも)人口を増やすべき 空き家を活用して町外からの人を呼び込む チャレンジショップやチャレンジ移住を進め、定住につなげる アーティストへのアトリエなど、空き家を安く貸す 子育て世代転入してほしい、王寺や生駒に転出してしまっている 外から呼び込むこと中に留まってもらう 若い人が集まりたいと思うように情報発信する 平群の無形財産を積極的に活用していく 平群ならではの付加価値を高めていく 現状維持と改善が必要 文化センターの活用 駅前を活発にしたり、平群のここに行きたい！と思えるような魅力があればいい
公共交通 交通の便がいい 生駒や王寺にも行きやすい 住んでみたらアクセスいいのが分かる 鉄道が利用しやすく、スーパーも結構あって買い物しやすい	公共施設 総合文化センターの概要が分かりにくい 借り方・費用分かりづらい		
農業 農業に力を入れている 農産物！古都華日本ー ブドウ・薔薇・小菊 すぐに直売所で買えるのは贅沢！	道路・都市環境 道路整備への対応が遅い 168号線 ・暗い ・渋滞 竜田川沿道も除草対応など迅速でない 平群駅前がきれいだけど、殺風景で逆に何も無いように感じる 飲食店が少ない		
その他 近隣と比べて、物価が安い 子育てのフォローアップを頑張ってる 保育料が他市町村に比べて安い 平群駅周辺がキレイ 総合文化センターでイベントをたくさんやってる 移住してくる方へのPRを頑張っている			

(B 班)

好きなところ・お気に入りの場所・満足しているところ		気になるところ、課題、改善点	10 年後、自分や家族、子や孫はどのように暮らしていきたいか
観光 朝護孫子寺 人気ある、地元住民も頻繁にいく行事を少しでも多くの人に知ってもらうことが必要 「寅年」をアピール 千光寺 どのようにアピールしていくのか他の拠点とどうつながっていくのか道の駅と関連付けて、足を運ばせる取り組みが必要 信貴山スカイライン 夜景がきれい。ただ、夜は暗くて危険？ 朝、霧がかかっていて、キレイ 信貴山城 城ブーム 松永屋敷 駐車場がない、整備の一環として駐車場の案内を行うべき	土地利用 駅前 散歩、ウォーキングコースがある高齢者の活用ができそう コース設定したら、さらに楽しくなりそう 道がきれい、広い、歩きやすい環境になっている 総合文化センターがキレイで、図書館や広いスペース 世代関係なく、楽しめる拠点にしたい ロータリーがキレイ、暗くなっても安心 年をとって車に乗れなくなったら、駅前に住みたい 道の駅大和路へぐり 道の駅に観光ボランティアガイドがいる 地域振興センターも頑張っている 安心・安全な食材を購入できる 新鮮な野菜が人気、大阪から人を呼び込んでいる もっとアピールしていくべき 規模が何とかならないのか（皆さんで見学にいってもよいのでは？） 交通渋滞が発生しているのは課題	産業（雇用） 連携（観光拠点間、産業間） 朝護孫子寺、千光寺、信貴山スカイライン、信貴山城の連携が必要 駐車場の整備ができていない スタンプラリーの本があるが、そこに信貴山城をのせるべき 高取城と連携する、高取城に来た人に PR する、高取城を利用して 情報発信は若い人を活用する 千光寺を日本遺産に 道の駅から観光に行く（観光ボランティアガイド） 定住促進（人口対策） 若い世代の転入 高齢夫婦世帯が多い。子どもの近くに転出することで、空き家が発生している 実家の近くに転入してくる子育て世代もいる 就職の場所がない 空家問題 今ある住宅地にできる空家の対策 情報発信 奈良女子大学や他の大学（連携）と連携するなど、情報発信に若い人を活用すべき 大学生の英語力を活かして、世界に向けて情報発信 自治体間連携 土地利用 駅前 ちょっと寄る店がなく、お金を落とすようなお店があれば良いと思う いい環境をもっと PR し、知ってもらう必要がある 活性化のために、人々が集まれる機会が欲しい バスが入ってくるにすれば道が狭い 子育て世代が気軽に住める賃貸マンションが必要（若い人も住みやすくなる） ←マンションの誘致は高さ制限や採算面から難しい 人がつながる交流機能があってもよい	工場誘致 財政破綻させたくない 若者の働く場 自治体間連携
情報発信・PR 山のぼっけナビ 広報活動			
子育て・教育 子ども園 待機児童がいない			

(C 班)

好きなところ・お気に入りの場所・満足しているところ	気になるところ、課題、改善点		10 年後、自分や家族、子や孫はどのように暮らしていきたいか
強み ①大阪から 4 0 分程度で好立地 ②東側に土地の開発余地がある ③緑豊かな環境を生かした平群の里	弱み ①平群谷（V 字の土地）研究機関を誘致するのが不可能（変革が求められる） ②財政難（低利融資を活用して投資が必要）	情報発信 情報共有が重要 若い世代は SNS で情報を集める 高齢者の方は広報紙を一番よくみる 自分に関わりがありそうなものであれば見る （地域のことのことが連載として掲載されていれば読みたいと思う）	将来像 田園都市 平群の里 日本一のハナミズキの森 メダカを池ですくう 近郊の都市から子供連れが来て遊ぶ
観光 信貴山 名前が知られている 三郷町にあると思っている人が多い 平群育ちなのに知らない人が多い 虎年は 1 2 年に 1 回ある ハイキングコース、平群町から行く道がない 信貴山→信貴山城 自然そのままを体験できる 健康ブームでもある 生駒山系 遠景がきれい 自然を体感する部分が少ない まほろば遊歩道 北側の環境は良いが、歩道がつけられていない場所がある。 矢田山系 自然は豊かだが、利活用するための入口の整備がされていない	行政運営 5 次総計の評価 5 次総合計画の 8 年間で一番変わったところは何か。 →駅前については大きく変わった。 財政難 お金をかけずにアイデアを出して改革をしていく必要がある。 改善ではなく、改革をしないとイケない。 「平群町に行ってみよう」ということにつなげるためには大胆な取組が必要（お金も必要） ゆるキャラ 右近君・左近君→トラでキャラクターをつくれないうか。 王寺町は雪丸で PR している。	産業 ブランドづくり 農産物に限らない、観光のブランド化 椿井城等の史跡が近郊の都市から見に来る価値のあるものになっていない ブランドづくりのための投資が必要 平群といえば「●●」があれば、誇りが生まれる 信貴山、世界一の福寅を活かしたブランド化ができないか 例：十津川村は玉置神社、十津川温泉の周遊バス ↓ 関東からも来られるが、+アルファの資源が必要。 例：ラコリーナ（近江八幡） ↓ ハナミズキの森（他の地域にないもの） 平群の西斜面につくってはどうか リターンを考えないとイケない 民間の力を借りて誘致する 寺社仏閣 行政として係わりにくい部分ではある	町民連携 1 0 年後の将来に、どれだけ自分が関われるかが、愛着や自慢につながる 自分が関わらずに何かできても、自慢や誇りにはつながらない 様々な方が関われる仕組みを作ること、子供、孫に受け継ぐことが可能 ↓ 町や自治会等が取り組もうとしていることに、地域が困っていることをつなぎ合わせて、より多くの方が、自分事として取り組んでいけるとよい。 提案したことに関わっていくことが難しい面もある。
住環境 自然災害が少ない 安心・安全・自然・信貴山セットでの PR をするとよい パワースポットもある 災害の少なさは住む場所を考える際のポイント→SNS で積極的に発信すべき	住環境 環境保全 地球温暖化、環境問題 平群町は環境にやさしいまちだということ を全国に発信できるとよい まちの風景 西斜面の菊畑、後継者不足で耕作放棄地になっているところもある（大雨になると泥が流れ出る） 道の駅にきた時に、移る風景が雑草地では、良さが伝わりにくい	住民協働 地域のつながり 住宅地開発で人が増えたが、高齢化が進んでいる 昔からの伝統行事 昔からの人と移住してきた方、力を出し合っていない 個人としての付き合いはあるが、地域としての付き合いが弱い 新規住民が参加できない みんなで一緒に取り組もう関係づくりが不十分 様々な素晴らしい取組が地域で行われているが、知らない 住民参画 住民の趣味・活動に頼らず、お互いを知って参画をして、楽しく関わる、満足いく 退職された方が生きがいを感じる取組。一步を踏み出せない人をつなぐ仕組みがあるとよい。 地域の多様性に対応するため、地域の取組に対して、町として支援していける取組があるとよい。	多文化共生 「多文化共生」のまちづくりが必要 昨年、人口 9 0 万人減したが、実態は、日本人は 1 7 0 万人減、外国人が 8 0 万人 ↓ 外国人の受け入れ体制の準備を今から行っておくことが必要
産業 企業立地 バイパス沿いの空き地、好立地を生かした企業誘致 （働く場・法人税も上がる）			生き方の多様化 これまでは学歴社会→良い会社に入ればよかったが価値観が変化し、新しい価値観に気づき始めている ↓ 平群町に行けば新しい生き方ができる。選ばれる町になれる。

(D 班)

好きなところ・お気に入りの場所・満足しているところ	気になるところ、課題、改善点	10 年後、自分や家族、子や孫はどのように暮らしていきたいか
観光 信貴山 ダイナミックな建物がよい 音の花温泉 生駒山 鳴川峠をこえて（トレイルランニング）	財政難 財政の悪化 住民の協力・呼びかけ・参加が必要 業務の取捨選択	将来像 平群の景観を維持しつつ便利な暮らし（坂もよい景観） 緑豊かなまち（やまなみを維持していきたい） ゆったりした生活ができるまち（ロハス的） 文化的なまち
産業 いちご ブドウ 食べ物の特産品（お土産） 花 小菊 バラの花 町外の知り合いにお土産としてもっていく ブランディング ブランディングされてきている 生産物が豊か 平群ブランドが立ち上がっていてよい	高齢化・人口減少 高齢者が今後も増加 車にのれなくなった方への足の確保 買い物弱者への支援策 鳴川の集落 自然の環境保護が人手不足でできない →若者が定住してくれる取組みが必要 担い手不足 一人暮らしの方の見守りが気になる 民生委員が担っているが限界がある 高齢者の方の雇用を進めている	高齢化・人口減少 鴨川の集落 鳴川（集落が 17 軒→10 軒きりそう）の集落の現状維持、それに向けた活動 →空き家の活用、移住促進 →千光寺で体験イベントをやりながら人を呼び込み、まちに活気を 若葉台 若葉台の高齢化が進む →高齢者同士の助け合い、老人会、町内会、行政同士の助け合い →話し合いの場づくり →老人会、町内会、行政同士の助け合いが進む
コミュニティ 文化センター ボランティアで花植え コミュニティ 役場や住民との距離感が近くて良い いろんな人に会えるのがおもしろい	産業 企業誘致 産業を誘致する活動（IT 産業・工業の誘致） →特別手当など →リモートワーク	産業 広域ロード沿いの活用（リゾートホテルの誘致など）してほしい →地域の産業を活かした取組み →合宿所の活用により町外からの人を呼び込んでいる こどもからお年寄りが楽しめる施設（ショッピングモール）がほしい →若いファミリー層が増え町に活気が生まれている
住環境 暮らし 大阪まで 1 時間 田舎とまちの両方の暮らしが味わえる お店・病院が増えた 景観 大きなマンションがない	住環境 景観維持 植栽の手入れ（街路樹含む） 空き家増加 植栽の手入れ（開発された住宅街・街路樹） →空き家活用 龍田川の維持 奈良県全体での観光資源の発信がよい 花見（屋台） お店がない →別のシーズンもよい（秋のもみじがきれい活かせる）	住環境 町外に出ている空き家が増える →個人資産をうまく活用できるようにする →コロナ対策も含め、活気あるイベント事業 →ショッピングモールなどの誘致 →こどもが残ってくれるまちになっている 空き家の活用、農地の活用 →空き家所有者・農業生産者と住民との関わり強化 （生活に取組みを組み込む） →生活を通じて空き家や農地が活用され、コミュニティ強化につながっている
公共交通 町外 ボランティアで花植え 町内 デマンドタクシー コミュニティバス	公共交通 駅 無人 駅（近鉄）が無人	
公共施設 近大病院 病院が多い 老後が安心 スポーツ施設 スポーツ施設が優遇されている	公共施設 老朽化 ごみ処理場（老朽化） 公共施設の更新 →雇用の場の創出	
子育て・教育 優遇制度 こどもによりそった制度（保育時間など）		

(E 班)

好きなところ・お気に入りの場所・満足しているところ	気になるところ、課題、改善点	10 年後、自分や家族、子や孫はどのように暮らしていきたいか
自然 みどりが豊か ホタル：平群北幼稚園近くの鳴川（20 年ほど前） →最近はいない →ホタルを育てる取組はある 家の庭にホタルがいた（北信貴ヶ丘） 桜がきれい 自然と生活が密接につながっている散歩コース、ハイキングコースがある	人口減少 人口減少（若者） 都会からのアクセスは良いが人が減っている 町内に高校がないことも一因 →同窓会なども町外になるので愛着も育ちににくいのでは？（推測） 30 代の同級生は 9 割外に出て行っている（働き口がない。） →若い人を取り入れながら自然を残していくことが課題と思う	子育て 子育てしやすい 30 代に平群へ移ってきて大阪から遠いと思わなかった。学童、中学校の給食等、子育てしやすい街だと思った。 これらは子育て世代を転入を進めるための要素になると思う。 自分の子どもがいろいろな経験ができる、教育環境が整っているまち（補助金等で子育て支援が充実） 税収が減っている（60 代の方の増加、若い人の減少） →サービスの低下 →税収確保のために、教育の充実（平群に住むと良いというイメージづくり）
観光 歴史 歴史が古い（「くまがし」「信貴山」「なるがわ」「千光寺」「役行者修行」等） →観光に活かせるとよい（周辺：斑鳩等の連携） 橋本：弥生時代の遺物等	自然 ハイキングコースのうち整備されていない部分があり、コースが限られている ホタルが少なくなり、自然が減っている部分がある	住環境・地域コミュニティ 町外の人を受け入れやすい 若い人を受け入れていくための手立て ①便利な住環境の整備 ②目的を持ってきた人（就農希望者等）の受け入れ 農業者の受け入れ →インターンして町を知ってもらう取組 →若い人が住むという事例がある
自然と歴史 信貴山（紅葉や桜） ハイキングコース（千光寺等） 御陵園：ホタル等。生活空間のなかで楽しむことができるまちづくり	高齢化 車がないと移動が厳しい地域がある →バスやデマンドタクシーの充実が必要（買い物、通院等） 昔からの家が空き家になり、高齢の住民は駅前のマンションへ転居している例	空き家を、町民だけでなく、町外の方が入ってきやすいようにする また、空き家の利用価値を高めていく。 （例）街なかではできないことをできるよう整えていくなど 高齢者が住みやすい 路線バスの路線拡大（お年寄りが移動しやすくと良い） →移動できないと都会のマンションに移ってしまう 年配の人へのサービスが整っているまち →（例）デマンドタクシーの対象を拡大できると良い
住環境 暮らしやすさ 安全（犯罪が少ない） 人がやさしい（仕事で農家さんと関わる中で） 新鮮な野菜が安く手に入る テニスコート料金が周辺市町に比べるとリーズナブル 大阪方面からのアクセスがよい（電車）	土地利用 空家・耕作放棄地 土地の権利が荒れている（バブル時に放置されたもの等） →町だけでなく、県も含めて対策が必要 →財政的にも厳しいかと思うが長期的な視点で取組必要 空家の増加 荒廃農地が増えている 農家が高齢化。相続で所有者が町外に移っている傾向。 獣害（アライグマ）	情報発信・PR 平群の良さが対外的にしっかり伝わるとよい 平群に限らず、西大和全体でのブランド化ができるとよい ・「歴史」と「観光」 ・暮らしやすさ、都会へのアクセスは芦屋、三田等と比べても劣っていない ・自然が豊か（うぐいすの声、紅葉、歴史等） ➡これらをアピールしていく
子育て 昔から学童保育があり子育てに助かった 中学校に給食がある 給食がおいしかった印象がある（給食には力を入れている。平群産野菜）	公共施設 住民サービス（図書館） 斑鳩町、生駒市、三郷町 等と比べても本数が少ない（高齢者は活字が大きいものも必要） 図書館に新しい本が入りにくくなっている （例：六法全書が古かった）	土地利用 計画的に土地利用されているとよい 土地利用は、宅地と農地が混合している場所がある。 ➡駅の近くなら住みやすく、山の近くでは農業をしやすくななど、ゾーニング（エリアの位置づけ）を明確化できるとよい。

<第2回まちづくり会議>
(A 班)

②子育て・教育		⑨環境・ごみ対策		⑧空き家対策・土地利用	③情報発信・PR		
○文化・スポーツ・自主学習など、子どもの校外学習をサポートする	○義務教育の内容を充実させる（平群の特色ある授業など）	○環境美化への意識醸成のきっかけをつくる	○休耕地などを活用して、子どもから高齢者まで土いじりをする	○空き家・空きスペースを活用する	○ SNS（Instagram や youtube）など活用する	○道の駅を活用し、観光や魅力のPRを充実する	○朝護孫子寺に阪神タイガースファンを呼び込む
背景 子育て世代の転入増加・転出防止を目指すべき 若い世代が住む場所を探す時「子どもをどう育てたいか」を重視する 団体行動の規律や社会性を身に着けるきっかけになる			背景 子どもたちが土に触れて、自然を大切にする意識をつくれたら良い 都市部の子どもたちも平群に来るきっかけになる 若者も農業に興味のある人、趣味で農業をやりたい人が増えている	背景 ex:奈良市のゆめキューブ 交通アクセスのよさを活用	背景 県内外の人に魅力を伝える必要がある		背景 虎（トラ）にあやかって……
取組 平群の第九合唱 子ども・親子ミュージカル 学童保育に近いスペースを利用して、習い事教室を実施する ・英語教室 ・スポーツ教室（町内外から指導者を募る） 総合文化センターの空き部屋などを中学生などの自習室として開放する		取組 住民みんなで花を植える	取組 農業経験者が子どもたちと一緒に活動する	取組 新規出店希望者向けチャレンジショップのサポート アーティスト（芸術家など）のアトリエとして貸し出しする 総合センターなどを活用し、アーティストや演者が発表する場（機会）を用意する	取組 SNS チーム（町＋住民）で戦略的に発信する SNS 映えするスポットをつくる・見つける ・花畑（お花アート） ・（テレビ番組）シャッター商店街のスプレーアート ・共通の #ハッシュタグつける		
役割 山本さん（声楽家）：他市町で実施経験あり			役割 （竹内さん：200 坪の農地で農業経験者	役割 福田さん：町内で住民らが気軽に集える場を提供するコミュニティで活動している	役割 長原さん（職員）：11 月に始動した町 Instagram を運営している		

(B 班)

①産業（雇用）		②子育て・教育	⑧空き家対策・土地利用	その他
仕事の選択肢を増やす	観光振興（お金を落としてもらう） ←観光振興を地域振興につなげる	若い世代の転入	団地の空き家の有効活用	
背景 仕事の選択肢がない 若者の働く場所がない 誘致できる場所が限られている		背景 平群町は高校、大学がないので、流出してしまう 住宅が不足：賃貸マンションがない 買い物環境が充実：駅前でもマルシェが増えてきた 実家の近くに転入してくる子育て世代もいる	背景 質の良い住宅、広い住宅、庭付き住宅が手ごろな値段 団地内で空き家が増加 所有者が納得する価格で販売できない	すべての取組に必要な ①連携（観光拠点間、産業間、自治体間） ②情報発信 ・奈良女子大学⇔他の大学（連携） 町民：情報を収集して、発信する 大学生の英語力を活かして、世界に発信する ③人材の活用 ・観光ボランティアガイド ・子どもの見守り、自治会の活動 ・図書館でもボランティアがいる ・商工会や経済クラブ ④町民、事業者・団体、行政みんなを巻き込む ・平群町の現状を知る ・商工会や経済クラブも巻き込んでどうか →勉強会を開催
取組 新しい産業を生み出す （例）チャレンジショップ ・若い人がチャレンジできる場をつくる ・道の駅にも活用できるテントがある	取組 土地利用 竜田川、空きスペース（公共等）の活用 （花、こいのぼり、季節を感じる場所） 人の活用 観光ボランティアガイド、学生の活用 既存観光地との連携	取組 教育環境の充実 （例）塾の誘致 更なる暮らしの環境の充実 （例）マルシェなど、住民が参加できる場を増やす	取組 リノベーション PR ホームページ、SNS で情報発信 ビフォーアフターを見せ、新しい家を探す人に PR	
役割 町民、自治会：若者を応援する、手伝う	役割 町民：情報発信 （高齢者もスマホを使える若い人も一緒にみんなで発信する）		役割 町 民：空き家情報を入手 自治会、老人クラブ：空き家情報を入手 既存の組織を活用することがポイント 事業者：リノベーションの実施 空き家の購入 所有者の説得 平群町：連携することで信頼を得る	財政破綻はみんなで考えないといけない ・町の取組はもちろん、住民も甘んじてはいけない ・町の人件費カットはナンセンスであるが、町は業務効率化、自動化、ペーパーレス化を進めてほしい ・みんなで考えていかないとはいけない ・住民の啓もうも必要 ・経済の好循環は、町外事業者への発注を減らすことは重要であるが、町内事業者も甘んじてはいけない

(C 班)

②子育て・教育			④観光		
多様化する教育ニーズへの対応	オルタナティブ（選択）教育 移住	自然の活用	産業として観光に取り組むのであれば長期の取組が必要	いまある資源（農産物等）を活かしてブランド化	社寺仏閣を活用したイベントの開催
取組 必然的に対応していく必要がある	取組 熊本のウイングスクールの誘致 西小の活用 子育て世帯・スタッフも移住	取組 自然を活かした教育の展開 土に触れたりできる環境 総合的な学習の時間 裁量に任されている時間で自然体験 新旧住民のつながりを生むことにもつながる			
背景 10 年後、100 年後を考えると教育が重要 時代に応じて教育のあり方が変化（昔は富国強兵） 現実には私学に行かせる家庭が多い（親の意識改革が必要）		背景 感性を大事にした教育（知性よりも） 自然に触れる体験 町としての方針が示されると、教員の方々もカリキュラムを組みやすい	背景 歴史資源をどのような観点で捉えるのか 研究⇔観光 大きく異なる 現在の歴史資源では観光になり得ない 5 次総で進んでいない	背景 ホテル誘致 お金も時間もかかる 田を作らない農家が増えている	背景 王寺町は観光協会を活用している
	役割 熊本市は公教育として認めている（町としての協力） 誘致に協力することは可能	役割 農業が盛んであるため、農家の方々の協力（キャリア教育） 田植え・稲刈りの体験 町内でのホームステイ	役割 観光産業に取り組むのであれば、町としての方針が必要	役割 お米のブランド化	役割 ノウハウがないので情報提供して考えてもらう 信貴山観光協会（取組の多くが三郷町内）

④観光	③情報発信・PR			その他
パワースポットとして PR （若い方の人気もある）	自治会力の UP	合意形成の土壌づくり	住民ボランティアの募集	基本的な考え方 ・お金をかけずに知恵を出す ・参画の方法 ・今ある資源を活用
	取組 自治会同士、自治連合会と町との情報共有のパイプの強化 自治会の取組の表彰制度 地域から情報を発信する仕組み（地域の広報紙）	取組 トップセールスの実施 目的意識をもった PR の実施 例えば：ごみの分別の現状の周知 住民として何に協力すればよいかをわかりやすく示してほしい 10 年先、時代の流れに対応した情報発信	取組 町民の能力発揮 活躍の場づくり 町づくり会議の継続（年に 1 回あるとよい）	
背景 奈良県観光ビューロー（商品開発）千光寺はコロナ禍でも人気がある 社寺仏閣に来るのは高齢者が多い 若い方が来ると、観光消費額が高い 大阪から近い 女性も体験できる滝行	背景 常日頃から地域の意見を吸い上げる仕組みがあるとよい	背景 大分県、鳥取県の知事 地域おこしで有名。町長としての PR をしてもらう 何を何のために発信するのか、目的を明確化する 質の高い情報を発信する	背景 竜田川コープの 2 階スペースの活用 地域で取り組みされている内容の拡充・支援 総合計画の取組を毎年、総括をする仕組みが必要	
役割 滞在時間を長くしてもらう取り組み 周遊バス・宿泊 広域連携（県内他市町村と連携）	役割 優良事例を共有することで自治会力もアップする 町からの情報だけでなく、地域からの情報を共有		役割 取組したいけど一歩踏み出せない方の取組を支援 遊歩道の整備 ゴミ拾い等への参画 自治会の取組（係わり）があるとよい。	

(D 班)

①産業(雇用)				③情報発信・PR	⑦定住促進(人口対策)	⑤高齢化対策
担い手づくり	生産者と消費者をつなぐ	IT 企業を誘致	平群町の特徴を打ち出すことが必要	観光 PR		
背景 新規参入が難しい 担い手不足	背景 担い手不足 農業生産者と消費者がマッチングできていない 知る場が道の駅ぐらい	背景 どこでも仕事ができる 生活基盤が充実していないと誘致も難しい 3 次産業 働く場があれば人が来る	背景 上勝町（山間部のまち） ごみゼロのまちづくり、全国から視察 →特徴化されている 10 年前から焼酎づくり 大学と連携した商品開発	背景 情報ツールを使いこなせるか 平群に似た町は多い →インパクトが弱い →海外の方をどれだけ取り込むか かんぼの宿めぐり 信貴山 宿泊客を呼び寄せる 日本は物価が変わっていない 平群を拠点として観光地回れる	背景 若い人に空き家に住んでもらいたい リノベーション 空き家をお手軽物件として紹介 定住促進奨励金： →3 年分の固定資産税、それ目的で転入してくる人はいない →直結しない 平群の魅力を伝える必要がある 川上村：実際に暮らすとしたらツアー 教育環境は整っている	背景 平群町と自治会と長寿会の 3 者で話し合い →65 歳以上は自治会から長寿会へ加入 →町が制度化
取組 担い手づくり（兼業可） →農地を提供 →空き家を提供 →道の駅を活用 →特産品(イチゴ、小菊、)を活用した面白いものを作る →使えるものをつなぐ	取組 →情報発信、ボランティアを活用 →生産者と消費者をつなぐ →段階的に知る場所を整備 →若者を使う	取組 バイパス沿いで企業誘致 →誘致した企業がふるさと納税返礼品	取組 仕事につなげてアピール	取組 観光ツアー、観光資源を組み合わせ →楽しみ方 芸能人の SNS で発信してもらう まちの代表的な商品から派生 （行政） 町として民泊のやり方のセミナー開催 町としても海外向けに良さを配信 大阪のターミナル駅で PR 活動 特徴ある町民を SNS で発信、売り出す	取組 ほったらかしの公共施設（トイレなど）を整備 →ハイキングコースなど 体験してもらえると良さをわかってもらえる	
役割 （団体） NPO のような組織がプラットフォームとなり、農地や空きや情報の収集 担い手育成を支援 行政と連携しながら一緒に取り組めたら			役割 住民も商品開発に参加したい 住民が芋を作って事業者が商品化、住民が販売 家庭菜園の野菜も道の駅で販売 ↑生産・販売の指導がある とより良い 行政： 町おこし 町長直轄のチーム、若手職員育成 成功しているまちづくりを経験、学ぶ	役割 （事業者）旅行会社がプランを提供 ボランティアでも PR できる 町内に来てもらうためには、宿泊する場所を増やす →民泊 →インバウンド向け →空き家活用 （町民） YouTube で発信 個人も町も紹介・アピール	役割 （町民） メンテナンス 平群の暮らしモデルを発信 町外の人からあこがれる、イメージされやすい生活スタイルを発信	

(E 班)

①産業(雇用) ④観光 ⑧土地利用	⑨環境・ごみ対策	③情報発信・PR			②子育て・教育	
【農業】 体験できるゾーンづくり (作る、売る、食べる) レンタル農場づくり	ごみ分別 環境教育	まちづくりのアイデアを 募集するボックスづくり	平群町の特徴を打ち出す ことが必要	町ホームページの改善	子ども・若者の経験	家事代行サービス
取組 手ぶらで来れる 指導者が必要(高齢の方 が指導、アルバイト等、 雇用を生む) 農産物の物販 休耕地の活用にもつな げていく 道の駅で食べてもらっ たり	取組 行政の声掛けにより協 働によるごみの分別 環境教育 →町民の取組を紹介 →その他、環境について 幅広く	取組 アイデアづくり ⇒SNS で投票 ⇒平群町全体の取組と して採用 (採用者には平群産 の野菜のプレゼント 等のメリットを) ⇒継続的に町民の考え を知ることができる!	取組 ・デジタルのリテラシーの 有無により(年代等によ り)対応を順次進めていく	取組 →更新頻度アップ →デザイン・使いやすさの 改善	取組 キャリア教育 高齢者の方の知識を、子ど も(～大学生)まで伝える 取組	取組 ・町を通してサービスを提供 ・クーポン提供により住民 の負担減
背景 産業が弱く、PR もでき ていない	背景 かつてごみを減らす取 組があったが、現在はご みが増えている 気候変動にどのように 取り組めるのか町とし て考えたい	背景 観光はじめ、他のキーワ ードにもつながってく る	背景 高齢者の配布の負担増。 (一方で高齢者はデジタ ル対応が難)		背景 子ども減が税収減につな がるためアイデアが必要 住み続けたいと 思うための「愛着」	背景 ・自治体でも取り入れてい る例有り ・夫婦共働き世帯の増加
役割 R168 沿いの休耕地等の 土地利用への協力 →農地と貸すだけでは お金にならないが、雇用 等、付加価値を生む取組 に発展できると良い 農業の指導など、関連す る雇用への対応	役割 日常的なごみ減量 生ごみからのたい肥化 水分のあるごみを乾燥 →廃棄	役割 【町民】 アイデアの応募 →SNS での投票 →一緒に取り組む	役割 【町民】 LINE での回覧を試行的 に取り組んでいる。 (が、若者含めて反応は 少ない)	役割 【町民】 使ってみての意見だし	役割 高齢者が伝える役割を 担う →農業指導等 →大学生へ、どのような 仕事があるのかとい うことを伝える取組	役割 高齢者が伝える役割を 担う →農業指導等 →大学生へ、どのような 仕事があるのかとい うことを伝える取組 住民ニーズの把握(利用 目的 等)

②子育て・教育		⑤高齢化対策	④観光	⑧土地利用
子どもの愛着	賃貸宅等の誘致			
取組 子どもが主役になれるお祭り等、思 い出になる取組 子どもの作った作品を街なか(電柱 等)に展示する取組	取組 子育て世代向けに、駅前に賃貸宅等 の誘致ができないか →自治会に入会しない方の防災対 策 (今とは違う形での受け皿等?)	取組 空き家の活用 交通の便を改善 例：路線バスの路線拡大	取組 史跡等のゾーンを設定し、ドラマテ ィックなプランニングなど	取組 山間部の土地をレジャー用に有効 活用できたらよい
		背景 (空き家は)今後増加していく 町の財政を考慮		

<第3回まちづくり会議>

定住促進（人口対策）、空き家対策：

	取組	すでに実施していること	課題
定住促進	○平群町を知ってもらうきっかけづくり ・平群町の魅力＝農業ができるまち、おいしい野菜があるまちということをアピール	・町内限定で貸農園を実施 ・農業体験は、年に1回、広報で情報発信している	・町外に情報が伝わっていない
	○高齢者が平群町に住み続けてもらうための活動の場を提供 ・貸農園など、耕作放棄地を活用し、高齢者が活動できる場所を確保する	・耕作放棄地が増加している ・町内限定で貸農園を実施 ・貸農園は、人気があり、すぐに埋まってしまう	
	○仕事の確保、働く場所の確保 ・平群町への企業誘致を実施 ・コワーキングスペースなど、平群町に住みながら仕事ができる環境を整備（空き家の活用も含める） ・テレワークが進む中、場所を選ばずに仕事ができる人を受け入れる環境の整備 ・平群町で人材を雇用したい企業の誘致		
	○定住に向けて、移住してもらうターゲットを設定し、ターゲットごとにPRを実施 ・エリアごとに、受け入れるターゲットを分けてはどうか。農業に関心がある人はこのエリアなど、平群町のエリアごとの特性を整理して、PRする ・世帯数の減少が激しいエリアは、「重点的に実施するエリア」としてはどうか		・「働くための場所」、「住むための場所」で、その地域に求めることが異なる。まずは、どういったターゲットを求めるのかを議論する必要がある
	○持続可能な街づくりに向けて、子育て世代の受け入れを促進 ・教育に力を入れることで、子育て世代の受け入れを進める。義務教育の延長として、オルタナティブ教育、平群町の自然を活用した自然学習や、これからの時代に必要となるお金の勉強、不登校児童対策など ・個人が持つ教育関連企業とのネットワークを活用して、誘致を進める（空き家の活用も含める）		・自然が多い、大阪からの交通利便性が高いことから、子育て世帯には人気があるが、高校からの進学時に転出することが多い ・大学進学、就職で出ていったとしても、平群町に戻ってきてもらうことはできないか
空き家対策	○町内の団体や個人のネットワークを活用した空き家情報の収集 ・町として空き家の状況を把握しきれない中で、町民や地域の団体と連携して、登録できる空き家の情報を吸い上げることが必要である ・収集した情報は、平群町だけで発信するのではなく外部に	・空家バンクは創設したが、登録が少ない	・平群町の空家バンクは登録件数が少ない。実際には多くの空家があるが、活用しきれていない
	○地元不動産事業者等と連携した空家の活用の検討 ・平群町が持っている情報を広く開放して、活用方法を検討したり、不動産事業者に販売してもらう		・町民、団体、事業者、平群町の役割分担の明確化
	○高齢者の居場所づくりとしての活用 ・高齢者が交流する場所が必要である	・公民館等では、地域住民の集いの場として活用されている	
	○コワーキングスペースなど、働く場所としての活用 ・場所を選ばずに仕事をする人が増えており、町民が大阪まで働きに行かなくても町内で仕事ができる場所として活用する		
	○所有者が安心して貸し出せる制度の検討 ・定期借家契約など、所有者が安心して貸し出せる仕組みや制度を検討する		・空き家の賃貸では、所有者が貸すことで戻ってこないのではないかと不安が出る
	○空き家所有者が気軽に相談できる窓口の設置 ・庁舎内ではなく、住宅地近隣に、気軽に相談できる窓口があってもよい ・窓口では、積極的に活用に向けて事業提案することも必要である ・空き家活用の勉強会を実施してもよい。活用事例を知ることで、こんなことができるのかとなり、活用が進む可能性がある		・空き家の所有者は、活用方法がわからなかったり、売買することを近隣に知られたくないため動けないなど、悩みがあり、放置してしまっていることがある

	取組	すでに実施していること	課題
その他	○情報発信の強化 ・平群町の魅力を町外にアピールする ・SNS の積極的な活用 ・平群町の魅力 = 自然が多い、大阪から約 1 時間の利便性、病院が多い ・周辺市町と一緒にアピールする ・助成や支援制度も一緒にアピールする	・情報発信は行っているが、現状の方法だと、町外に伝わっていない。ポイントを絞るのか、SNS の活用を増やすのか、もっと伝わる方法を考えて実施する必要がある	
	○第 5 次総合計画の評価とデータの活用 ・第 5 次総合計画の評価において、例えば、達成度 A、取組方向 C と出ているものはどう評価するのか、達成したが、方向が間違えているとなると、そもそもの取組を考える必要がある ・評価と分析を行い、それに対して何が必要かを考える必要がある		
	○町民や事業者が提案できる窓口の設置 ・空家の話で相談できる窓口がないことだけではなく、教育の話でも、町民のネットワークから、民間の教育事業者を誘致したりできる可能性があるなかで、平群町に提案する窓口を設置してほしい ・なんでも話を聞いてほしいというより、町民としても何かしら、まちづくりに協力したいと考えている人がある。平群町だけで考えるのではなく、色々な人のネットワークやノウハウを活用してはどうか ・提案については、すべてを聞いてほしいのではなく、ダメなものはダメと言ってもらって構わないが、何がだめなのかを、教えてほしい		

子育て・教育：

	取組	すでに実施していること	課題
全体	・外から魅力を感じられるまち ・外へ出ても魅力を話せるまち、好きだと思えるまち		
子育て世帯へのサポート	○子どもが熱を出しても代わりに預かってくれる環境や体制づくり（病児保育の充実）	・医療費は高校生まで無料	
	○子どもの食物アレルギーなど、同じ悩みを持つ保護者同士で情報交換できる場づくり		
	○町内で子育て世代が働けるような場づくり（大学や企業、医院と協力する）		
	○レベルの高い学習塾を駅前に誘致する ・親が安心して預けられる、教育水準を上げることで子育てにより町としてアピールできる		・昔は塾があったが少子化の影響で撤退した
教育内容の充実	○グローバル教育の充実 ・ALT の常駐など、外国語教育を充実させる ・町内に住む外国人と一緒に、外国の文化や暮らしを体験できる取組をする		
	○郷土史教育の充実 ・郷土の歴史を学ぶ時間を増やす ・平群の歴史を実際に歩いて拾う（見つける）授業や取組をする ・妖怪ウォッチやポケモン GO のように子どもたちが体験しながら学べる取組	・体験型授業は学校で実施している	
	○自然を活用した授業の充実 ・農家などと連携して、自然を体験したり観察したりする授業	・こども園では実施している所もある	
	○民間企業との連携 ・民間企業と連携して教育内容（プログラミングなど新しい教科）をサポートする ・教師の負担軽減 ・専門性の高い内容が充実する→教育水準の向上にもつながる	・県内で、KEC（県内で進学塾を経営する会社）が学童時間に、プログラミング・英語・投資などを教えている例がある ・以前、くまがしクラブで実施しようとしたが体制が整わず断念した	
	○問題解決能力を育成できるプログラムの提供 ・子どもたちによる疑似会社経営など、自分で課題を見つけ、考えて企画し、形にすることが体感できるプログラム ・お金の動きや自分で問題を見つけ解決するまでのプロセスを学べる→社会でも即戦力に平群だからこそできる教育の特色のひとつになる		
	○オルタナティブ教育（自分に合った学びが受けられる教育）の環境づくり ・学校に行かないのではなく、行かない選択をする子どもが増えている（不登校の原因にも） ・県内にまだない、平群は自然が豊か、子育て世代の誘致につながる	・熊本県のウイングスクールは九州各県から子どもが集まっている	・オルタナティブ教育を知らない人が多いので、まず賛同（理解）を得ることが必要 ・住民や企業などを巻き込むことが必要
教育環境	○行きたいと思った時に学校に行ける仕組みづくり（決まった時間に登校するのではなく）		
給食	○給食に地場産品を使っていることをもっと PR する ・食べるだけでなく、調理する時間を設ける ・大人が給食を食べられる機会をつくる（道の駅のレストランでメニューとして出す、西小学校を活用するなど） ・買い物難民などの高齢者に対しても給食を提供する		・配達などは難しい
	○道の駅で余った（売れなかった）食材を給食に活用できる仕組みづくり ・安く買える、食品ロスに貢献できる		
	○給食センターはこれからも絶対に存続させるべき		
その他	○同世代（学生）が集まる場をつくる （大学の寮や学習塾など） ・青春時代を町内で過ごしてもらうことで、平群に愛着を持つことにつながる		

情報発信・PR :

	取組	すでに実施していること	課題
観光	○信貴山、椿井城のPR ・テレビなどを用いてPRを行う ※平群町を知ってもらうきっかけづくり ※お城ブームに乗る		
	○民間の協力をあおぎ、トイレを借りる仕組みづくり		○ハード整備が必要 ・観光スポットに駐車場やトイレがない
	○マニアックな町内ツアーの実施 ・文化材や歴史の要素だけに限らない ・近隣にまたがってもよい ・インターネットを用いて発信を行う		
公共施設	○デジタル化を広げる ・文化センター・道の駅・協力企業などで自由に使えるタブレットの設置 ※ボランティアガイドと連携		
	○道の駅の拡大		
	○町や自治会・有志宅の掲示板の活用 ・補助金があれば活用にあたってのリメイクがしやすい ・掲示板が観光情報等の周知ツールとなって、ウォーキングをしながら見て学べるようにする		
町のHP	○平群の日常を発信できるしくみづくり ・(例1) 幼稚園帰りの子どもが農家さんの畑に立ち寄って、いちごがもらえる暮らしがあったりする ・(例2) 地域でこんなボランティア活動が活発に行われている など		
	○町民の声を受け付けてくれるしくみづくり ・アイデアBOXを設置し、回答を貼り出す ・ネット上で書き込みができる掲示板を作成する		
	○ターゲットをしぼった発信を行う ・どんなツールが効果的か考え、ターゲットごとの配信ツールを分ける ※何を発信するのか、戦略が必要となる		
	○取組している主体の町民からの発信が必要 (SNSを含む) ・共通のハッシュタグの作成 ※情報を集める仕組みづくり ・YouTube などでの配信を促す ※ボランティアの募集も併せて行う ・レジャースポーツ関連の情報発信	・信貴山周辺のサイクル・ロゲイニングが行われている	
イベントの開催	行者体験などの企画	公民館講座 (笑いヨガ)	

	取組	すでに実施していること	課題
町のイメージ向上	○菊の取り組みについて ・SDG s の取り組みなど	廃棄の菊を庁舎で活用する	
	○竜田川 PR を道の駅などで行う ・写真・絵画などを用いる		
	○マニアックな町内ツアーの実施検討 ・文化材や歴史の要素だけに限らないプログラムの作成 ・範囲が近隣にまたがってもよい ・インターネットを用いて発信を行う ・竜田川の管理はボランティア団体などと連携し管理	鯉のぼり、桜のライトアップ	・竜田川沿いの行政管理が必要
	○朝護孫子寺の PR		
外部連携	○広域連携により導線を作る発信 ・近鉄とツアーを共同開発する	・WEST NARA の取組み ・時代まつりで実施 ・奈良大学と連携を行う（メディアで受信）	
人材の確保育成	○情報発信できる人材発掘を行う ・ハッシュタグを作成し、まずは活用者を増やす		
	○平群の資源を用いた学習を行う ・平群の菊で聞く人形作りなどサマースクールで実施する ・講師や参加者に協力をあおぎ、情報発信を行う		
	○町民に町のことを知ってもらう ・広報のコラムへの掲載 ・総合文化センターでの展示		
	○マイスターパーソンの育成登録を行う ・平群町に話題性のある場所に精通している人を認定する ・各地域のマイスターパーソンへの援助（買い物券などもらうことができるなど）		

高齢化対策：

	取組	すでに実施していること	課題
交通対策	○公共交通（デマンドタクシー）の利用促進 ・片道 300 円（往復 600 円）となっているが、往復ワンコインで利用できるように片道 200 円にすると利用が促進されるのではないか？ ・65 歳以上が使えない仕組みになっているが、対象を広げる（子育て世帯、観光客等）と利用が促進されるのではないか ・地域で使えるチケット（デマンドタクシーの利用に限らない）を配布してはどうか	・デマンドタクシーの取り組み ・免許の返納（タクシーについては 1 割引き）	・町外の医療施設に行くことができない（社会実験中であり、運行区域が町内のみ） ・デマンドタクシーは土日走っていない ・高齢になり、運転が危ない ・活動場所へ乗り合いで移動していたが、それがなくなる ・使いたいときに使える仕組みが必要
	○自動運転のモデル地区として取り組んではどうか。 ・民間企業との連携		・山間部は坂道も多く、車がないと移動できない
買物	○コープ電田川店が配送サービスの強化に取り組んでいる。 （平群町は奈良県内でも組合員率が高い）		・交通手段がないと、買い物に行くことができない
集える・活躍できる場づくり	○地域の高齢者の日常的なお困りごとを聞く場が必要。 ・長寿会との連携		
	○地域サロンの開催 ・各地域において生活支援の拠点を設置。モデル的に多世代交流等を実施（子ども食堂との連携など）		・コロナ禍で外出する機会が減っている
	○e スポーツ（室内・ネットを介した運動等）に取り組んではどうか ・多世代交流にもつながる（経済的効果は少ない）		・ゲートボール大会など、コロナ禍できていない
		・花いっぱいボランティア活動を行っている。（文化センター前の薔薇の花の管理など）	
	○参画のための第一歩、きっかけが必要。個人情報等にも配慮した、相談しやすい環境づくりなど		
情報社会	○小学校における子供たちへのプログラミング教室への参加 （多世代交流にもつながる。南小学校でモデル的に実施してはどうか）		・情報格差が生まれており、今後、さらに格差は広がる
地域コミュニティ	○普段からの横のつながりづくり	・当番・役割は除外してでも加入し続けてもらうようにしている ・自治会の班長の役が重たいので、副班長を設けて役割を軽減 ・LINE を使った情報共有	・独居老人になると役が大変であったり、集まりに参加できないため、自治会から抜けられる
			・旧来の地元の住民と転入してきた新規住民で、自治会に対する意識の差がある
			・地域コミュニティが高齢化すると、水路・里道の管理等が課題となる
防犯対策			・高齢者を狙った犯罪なども増えているため、対策が必要

※一言で高齢化対策と言っても段階（65～74、75 歳以上など）があるので、対象（区分）をした取り組みが必要